

巻 頭 言



静岡県知事 川勝 平太

富国有徳の美しい“ふじのくに” 地域外交と多文化共生

2013年の富士山の世界遺産登録を皮切りに、駿河湾の「世界で最も美しい湾クラブ」加盟、静岡水わざびの伝統栽培の世界農業遺産登録、伊豆半島のユネスコ世界ジオパーク認定など、静岡県の地域資源が次々と世界的評価を得ています。また、ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピックの自転車競技といった世界的イベントの開催も控え、本県は、まさに世界の檜舞台に立ちつつあります。

この潮流を受けて、本年度から、向こう10年を見据えた新しい総合計画「静岡県の新ビジョン 富国有徳の美しい“ふじのくに”の人づくり・富づくり」をスタートさせました。本県を国内外から多くの人々が夢を叶えるために集まる「徳のある、豊かで、自立した」地域、すなわち“Dreams come true in ^{ドリームス} ^{カム} ^{トゥルー} ^{イン} ^{ジャパン}”の拠点とすべく全力で取り組んでいます。

海外との交流を推進する施策として、本県は、友好的互惠・互助による善隣外交の精神に基づく「地域外交」を展開しています。昨年友好提携35周年を迎えた中国浙江省をはじめ、モンゴル国ドルノゴビ県、韓国忠清南道を中心に、青少年の相互派遣による教育交流、企業の海外展開支援を通じた経済交流、富士山静岡空港を活用した観光交流など、幅広い分野での交流を進めてまいりました。本県と海外の自治体との相互の信頼関係に基づく地域間の揺るぎない交流が、人と人をつなぎ、地域の、ひいては国の利益にもかなうものであると考えています。

一方、県内には、約8万6千人の外国人県民が暮らしており、今後も増加が見込まれています。人口減少や超高齢化など深刻な課題を克服し、地域の活力を維持するためには、「外国人県民も等しく県民であり、共に暮らす生活者である」という視点に立ち、全ての人々が快適に暮らし、能力を最大限に発揮できるような社会づくりが必要です。

このため、多文化共生意識の定着やコミュニケーション支援、危機管理対策、教育・医療など生活環境全般の充実を進めています。加えて、外国人県民の就業・定着を支援するとともに、地域防災などコミュニティ活動への主体的な参加を促し、彼らが活躍できる場づくりにも取り組んでいます。

海外に向けては地域外交を推進し、県内においては、異なる宗教、人種、民族の多様な生き方を認め合い、誰もが努力すれば夢が叶い、幸せを実感できる多文化共生社会の実現を目指して、今後も邁進してまいります。